

倶多楽火山

○熱泥噴騰に伴う地動波形の変化

2007年5月3日から同年10月11日～12日の規模の大きな噴騰活動まで、熱泥噴出に伴う微動は振幅も大きく、継続時間も長い(A)。12日の活動で熱水流出口が拡大し、これ以降の地動は振幅も小さくなり、継続時間も短くなった(B)。2008年5月頃からは約1日間隔で噴騰が繰り返されるようになり、地動振幅は更に小さく、継続時間も更に短くなった(C)。噴騰間隔が再び2～4日となった2008年11月以降、地動振幅は小さいものの長いコーダ部が顕著になり、この傾向は現在まで続いている。

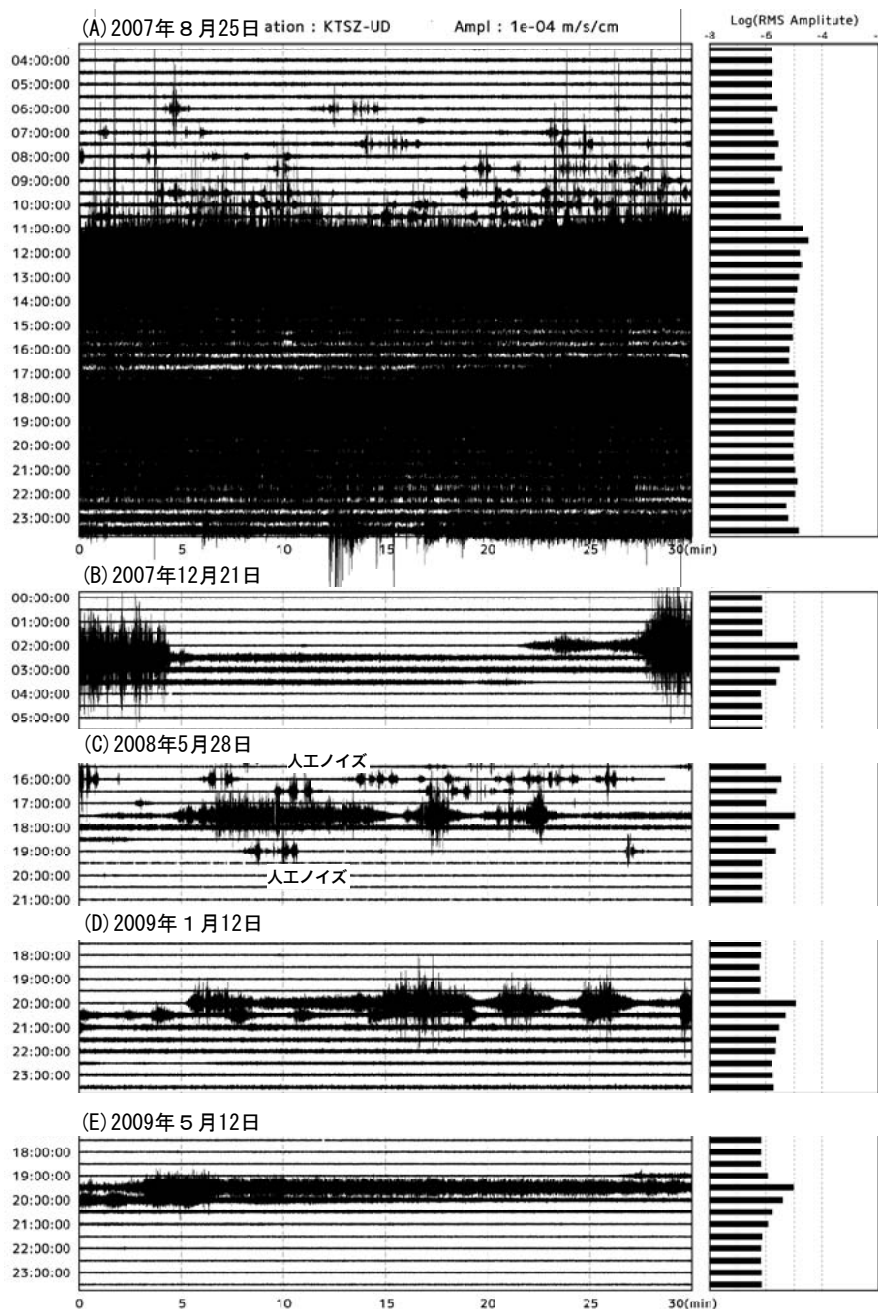


図1. 地動波形(上下動成分)の時間変化. 2007年8月25日(最上段)は大正地獄中心から10mの地点で得られた記録, これ以外は20mの地点で得られた記録である.

(大島・前川)

倶多楽火山